
『love shot』

八麻ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『love shot』

【Nコード】

N0665Z

【作者名】

八麻ハル

【あらすじ】

学年一位を保つ天才、黒金真一は、筋金入りのスケベ。妄想で、常に頭が一杯。そんな、彼は日々をほとんど妄想で過ごしていた。しかし、頭がいいけど、その不審なオーラを女子は感じるのか全くもてない。それだから、真一は少し寂しい思いをしていた。

それでも、彼は必死に妄想をエンジョイし、今日もたまたま直感だとか言って、運命の出会いを探しに、夜の散歩へ。正直、見てもらえないです。

一話 妄想師黒金真一（前書き）

一話 妄想師黒金真一

空が青い。

空気が澄み切っている。

確かに美しいこの世界で、僕はこうして妄想できる。ぐふふふふ。
ふ。

——ああ、天音ちゃん。なつきちゃん。いやいや、やめて、そこは痛いからさー。

ちなみに、僕は学年一位、スポーツ万能すべてがトップクラスの黒金真一だ。

自己紹介は、それだけ。

僕は今、学校に登校中だ。

学校というシンプルな媒体では、これといって特別なことは起こらない。だからこそ、妄想は必需品だ。需要がある。

そんな風に妄想と勉強の比率を一对一にしてこそ、二つが保たれるのだ。

つまらない現実には飽き飽きだ。

正直言って、口下手だからもてないし。

家に帰ると、プライドが邪魔しAVなんて滅多にみようと思わない。

スケベが行き着く境地が、妄想だ。

そろそろ、授業も終わる。

僕は静かに下校した。

あまり、クラスで目立ちたくない。

それは、他人が信用できないからでもあるし、自分の世界に入ってきて欲しくないからだ。

正直、人間関係は、うっとおしい。どう足掻いても、最後には裏切られるのだ。

信じてても、意味が無い。

寧ろ害になる。

「ふあああ、疲れた」

本当、今日はもう今すぐに眠りたい。

僕は、ベッドに倒れた。

——うへへ。金髪の美少女だ。お姫様、そこは触らないで。あー、髪がぬれてるよ。あはは、あっはは。正直、そこ触ると反応しちゃうから。って、何するの。いやいや、やめてー！ー！。

そんなことを二時間近く考えた末、突如目が覚めた。

なんとなく、本能が感じる。

運命の出会いが、すぐそこにある…と。

深夜一時。

もはや、誰も外にいないだろうに、僕は家の外に出た。

いつもの街路地。

本当に、見飽きてる。

だが、この先の交差点を過ぎると、夜でもやっているコンビニがある。だから、そこに向かっていた。

実は、腹も減っている。妄想は頭を使うらしい。

「ふああああ、眠さに負けんぞ」

僕は本当の孤独だ。学校に友達がいらない。それどころか、彼女も居ない。運命があるなら恨みたい。だれがこんな非論理的な状況を作り出したのか。

それは、きっと偉大な神だ。なんていつてもしょうがないかとほぼ。

じつくり歩いていく。

どこかに運命の出会いがあるはずだ。

隣のクラスの天音ちゃんが、偶然通りかかる可能性もゼロではない。

ふふふ。

——真一くん。そこ、元気になったね。ああ、触らないで。もう、感じてるわね。あはははは。

理想郷だ。

そんなことをのんきに思っている。

やばいことが起こった。

信号が赤なのに、道路を渡ろうとしている金髪の乙女が居た。

妄想ではない。現実。

僕は、考える暇も無く、全力で走りこみ、アメフトのように女の子を抱えて、歩道へ滑り込む。

「あつ、危なかった。大変だよ、死んだら」

僕は、その女の子に言った。

よくみると、とても可愛い。

しかし、僕にしていれば当たり前の光景。いつもの妄想の光景である。だから、特に感じるものは無かった。

「あつ、ありがとう。私は、姫様アリップスひめさまと言います」

「気にしないで。当然のことをしたまでさ」

僕は、服についた汚れを叩き落とす。

「ふあああ。眠いね。ところで、ジュースでもおごろうか。せつかくだし」

「えっ、いいのですか？」

「ああ、最近寒いし、あったかい飲み物でも飲んで、気を取り直してよ」

僕は、お金を居れ、缶コーヒーを二本注文した。

「ほら」

「ありがとう…」

僕達はどうして出会った。

それは、静寂な冬の出来事。

今思えば、この少女との出会いが、僕の人生をバラ色へと変えていたのである。

姫様アリプスは、通称ヒメと呼ばれている。しかし、友達が僕と同じく少ない。そんな可哀想な乙女に、僕は惹かれていく。「ありがとう」ヒメのそんな言葉が、僕を少し動かした。

一話 妄想師黒金真一（後書き）

妄想最高。この物語は、妄想によって構成されている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0665z/>

『love shot』

2011年12月2日17時54分発行